

おめでとう
ございます
平成27年度
人権作品優秀賞



三豊中学校 3年
大西 綾さん



豊浜小学校 6年
白曼 涼香さん

子ども・若者の自立支援

子どもたちの安全・安心と、成長過程においてさまざまな問題を抱える子どもや若者の自立を願って、少年育成センターでは地域や関係機関と連携しながら健やかな成長を支援しています。

■安全・安心パトロール

青色防犯パトロール車で地域のパトロール員や少年育成センターの職員が巡回しています。また、安全・安心の帽子や腕章を付けた人が地元を見回っています。

登下校の子どもたちとあいさつを交わし顔見知りになることで、不審者との遭遇防止につながっています。

■補導

各地区では地区の補導員が巡回しています。また、学校の先生と少年育成センターの職員は市内全域の巡回をしています。気がかりな子どもたちには声をかけ、非行や事故の未然防止に努めています。

■相談



人は人に傷つき悩みますが、その解決には人からもらう元気と勇気が必要です。

日常のあいさつや声かけを通して、困った時に支え合える、顔が見える人とのつながりを築きましょう。

冬休みや年末・年始には家族そろって地域の行事に参加しましょう。

■問い合わせ先 少年育成センター ☎25-4251

第2次観音寺市総合振興計画策定のための まちづくり未来会議を開催しました



本市では、平成30年度から平成39年度までの10年間のまちづくりの基本理念や、それを実現するための基本施策の方針等を示す「第2次観音寺市総合振興計画」を策定しているところです。

計画を策定するにあたり、本市の将来を担う高校生に、今後のまちづくりへの意見や提案をしてもらうため、11月3日に「まちづくり未来会議」を開催しました。当日は、観音寺第一高等学校、観音寺中央高等学校、三豊工業高等学校の3校から25人が参加し、活発な議論が交わされました。



問い合わせ先 企画課企画調整係 ☎23-3917

市では、市民の皆さんが希望あふれる毎日を通り越せるよう、さまざまな施策や業務を行っています。その内容は多岐にわたり、また、社会の変化に伴い複雑化しています。そこで、市民の皆さんから寄せられた「質問・ご意見を、回答と合わせてお伝えします。」



Q 平成28年分の所得
税確定申告から、マイナンバーの記載やマイナンバーカードの写しが必要とのことですが、マイナンバーカードを持っていない場合はどうすればよいですか。

A 平成28年分の確定申告の手続きには、番号確認書類と身元確認書類が必要になります。マイナンバーカードを持っていない場合は、次の書類を準備してください。

- 身元確認書類
記載したマイナンバーの持ち主であることが確認できる書類。運転免許証、パスポート、公的医療保険の被保険者証、身体障害者手帳など whichever 一つ
また、扶養親族がいる場合も確定申告書にそれぞれのマイナンバーの記載が必要になります。

A 加入している健康保険に関係なく、対象者（男性40歳以上、女性20歳以上）のいる世帯に、1月に「がん検診申込書」を郵送します。検診の種類は、胃がん、大腸がん、結核・肺がん、乳がん、子宮頸がんです。世帯ごとに平成29年度分の検診をまとめて申し込みむことができます。申込書に記入し、同封の返信用封筒で返送してください。また、国民健康保険に加入している35歳から74歳までの人で、人間ドックを希望する場合は、別途申し込みをしてください。詳しくは、広報かんおんじ3月号でお知らせします。



Q がん検診を受けた
いが、どうすればよいですか。

A 両親が住んでいた
家屋が空き家になりました。私たちは遠方に住んでいるため、土地・家屋の維持管理が大変です。何か良い方法はありませんか。

- ① 物件登録の希望を地域支援課（担当課）へ連絡
- ② 担当課職員が物件の外観を確認し、登録の可否を連絡
- ③ 空き家の担当不動産業者を決定
- ④ 空き家所有者、担当課職員、担当不動産業者との3者で建物の詳細確認をし、最終的な登録の可否を決定
- ⑤ 空き家バンク登録申込書を提出
- ⑥ 登録完了後、市ホームページや市窓口で空き家情報提供される
- ⑦ 空き家バンク利用希望者が物件を見学
- ⑧ 交渉および契約

A 空き家を売買や賃貸して有効活用する「空き家バンク制度」があります。この制度の利用の流れは次のとおりです。

Q 私は平成28年中の
収入が少なく、税務署で申告の必要はないと言われました。同じように市役所への申告はしなくてもよいのでしょうか。

A 所得税の申告が必要でも、市民税・県民税の申告が必要になる場合があります。例えば、国民健康保険に加入している人は、収入の有無にかかわらず、必ず市役所へ申告をしなければなりません。

全国大会出場 おめでとうございます

11/25 第25回全国小学生バドミントン選手権大会



▲常磐小学校 4年=清水花梨、清水彩世(三豊ジュニアバドミントンスポーツ少年団所属)＜敬称略・順不同＞
小学4年生以下女子ダブルスに出場する2人は、いとこ同士。ことしに入ってペアを組み、県大会(10月)、四国大会(11月)で見事優勝。「まずは1勝したい」「ベスト8を目指したい」と笑顔で目標を語りました。

11/30 第44回マーチングバンド全国大会



▲大野原小学校マーチングバンド 児童代表6年=森島百咲、岸裏陸、大西亜聖、安部藍加＜敬称略・順不同＞
「みんなで励まし合いながら練習してきました。仲間と力を合わせて全力を出し切ります」。ことしは創部30周年。先輩たちが築いてきた伝統を受け継ぎ、68人の部員が、19年連続25回目のステージに臨みます。

12/7 第24回全国中学校駅伝大会



▲大野原中3年=藤川大輝、藤川恵汰、佐伯昌哉、三宅純矢、柴坂磨拓、白川信貴 2年=藤岡駿之介、安藤光汰朗 1年=三好功太郎＜敬称略・順不同＞
「チーム一丸となって、それぞれがベストを尽くせるよう頑張ります」。同校9回目の出場となる全国の舞台で、先輩たちの記録を越えられるよう、1秒でも速く走ることを目標にレースに挑みます。

12/12 ご長寿おめでとうございます

100歳を迎えた田代敏子さん(坂本町)を、白川市長が訪問し長寿を祝いました。若いときは体が弱かったけれど、家族や親戚の協力で苦難を乗り越えてきたそうです。小さい体で農作業をしながら5人の子どもを育て、今ではたくさんの家族に囲まれ、ありがたいと涙ぐんでいました。週2回のデイケアを楽しんでいるそうです。いつまでもお元気で過ごしてください。



12/3.4 力作が勢ぞろい

市内の小・中学校15校の児童・生徒の作品を展示する教育文化祭が中央図書館でありました。夏休みや授業で制作した書写やアイデアいっぱいの工作、丁寧に縫い上げたワンピースやランチョンマット、特長を捉えた自画像など力作が約500点。多くの来場があり、わが子や孫の作品をじっくり眺めたり写真に収めたりする親や祖父母の姿がありました。



12/11 すてきなリースが完成しました

豊浜郷土資料館で育てた綿を使って、クリスマスの飾りを作るイベントがちょうさ会館でありました。綿の木を三角に組んで土台を作り、その上に綿やマツボックリ、ヒイラギなどの素材を飾ります。参加者は、講師とアシスタントの観音寺中央高等学校の生徒の手ほどきを受けながら、和やかに思い思いの作品を仕上げました。(まちかど特派員 久保田由美子)



かんおんピタウン情報

11/19-20 本の魅力を満喫したよ

「読書で広がる人のわ、街のわ、心のわ」をテーマに、子ども読書フェスティバルが中央図書館で開催されました。市内の小・中学生で構成されるキッズ読み聞かせ隊や地域で活躍するボランティア団体が、絵本や紙芝居の読み聞かせを披露。また、親子で触れ合いながら絵本やしおり、キーホルダーを作るコーナーなど、読書への関心を高めるイベントが盛りだくさんでした。



11/20 一人ひとりの日ごろの備えと訓練が大切

地域全体の防災力を高めることを目的に高室小学校で市総合防災訓練があり、約500人が参加しました。防災関係機関12団体の協力により、倒壊家屋からの救出訓練や初期消火訓練、AEDを使った心肺蘇生訓練、避難所運営訓練など、20項目を超える訓練を行いました。また、高室小学校の全児童が参加し、普段経験できないさまざまな訓練に真剣に取り組んでいました。



11/23 世代を超えて子育ての輪を広げよう

観音寺市愛育会設立10周年記念イベントが大野原会館であり、子どもから祖父母世代まで大勢の人でにぎわいました。伝承遊びやふれあいゲーム、香川高等専門学校詫間キャンパスの学生との簡単ロボット作りなど内容は盛りだくさん。陸上自衛隊第14音楽隊のコンサートでは金管楽器の迫力ある演奏を聞いたり、子どもたちが指揮を体験したりして音楽の世界を楽しみました。



12/4 銭形いろどり市 大盛況

地元で採れた野菜や果物、鮮魚、加工品などを軽トラックの荷台に陳列し販売する、銭形いろどり市が道の駅「とよはま」でありました。出店した18店舗にはレタスやブロッコリー、イチゴ、カキなどの特産物が盛りだくさん。「変わった野菜、どうやって調理するの」と対面販売ならではのやりとりを楽しみながら、産地直送で新鮮な産品をたくさんの人が買い求めていました。



12/4 差別のない明るいまちに

人権講演会が大野原会館で開催され約300人が参加。人権作品最優秀者の表彰や小・中学生の作文の発表、東京都北区議会議員であり「筆談ホステス」の著者、斉藤りえ先生の講演がありました。「聴覚障がいを知っている人に知ってもらい働くことができているが、自分から歩み寄ることも大切」との体験談や心の声に参加者はうなずき聴き入っていました。

